

皆さんはじめまして、平成23年度奨学生の大熊彩記子（おおくまさきこ）と申します。私は埼玉県さいたま市浦和区出身で、今年の3月に日本で大学を卒業して、この8月からフィンドレー大学に派遣されることとなりました。留学することは小さいころからの夢で、念願叶いこのようなチャンスに恵まれ、感謝の気持ちでいっぱいです。来年の5月まで、私自身がこちらでの生活を楽しむと共に、少しでもアメリカでの生活が身近に感じられるような、臨場感のあるレポートをしていけたらと思います。

アメリカへ入国

学生として留学する場合、通常の旅行でアメリカへ行く時とは異なり、アメリカへ渡航する前にアメリカ大使館で学生ビザを取得しなければなりません。入国の際は、ビザの他に様々な書類を持っていき、入国審査を受けます。いつもは“Sightseeing(観光目的)”と答えますが、“何の勉強をしに来たのか”“どこの大学に行くのか”などの質問をされ、早速緊張が走り、これからアメリカでの生活が始まるんだな、と少し実感が湧きました。

The University of Findlay (フィンドレー大学)

フィンドレー大学は、その名の通りフィンドレーという市に位置しています。実際には「フィンレー」「フィンリー」などと発音され、文字通りには読まないようです。

この場所の第一印象は「のどかな所」です。到着した8月の気候のせいかもしれませんが、過ごしやすい気候で緑が多く、青い空が広く澄み渡り、ウサギやリスが芝生を駆け回り、鳥や虫の声が常に聞こえ、ベンチで読書や昼寝をしている人がいたり、自由な空間の中で時間の流れがゆっくりしているように感じます。

大学の建物は、歴史を感じさせるような荘厳な佇まいで、建物自体が知的な印象を与え、学問の場であることを再認識させられるような、身の引き締まる思いになります。授業の様子などについては来月お伝えしたいと思います。



フィンドレー大学

Student House (グループハウス) / Dormitory (学生寮)

アメリカと日本の大学生生活の違いの一つは、「キャンパス内に住む」という所だと思います。Off-Campus (大学の敷地外)に住むことも可能ですが、特に一年生はOn-Campus (大学の敷地内)に住むことを強く勧められています。実際、On-Campusに住むことで、かなり学業に専念することができると思いますし、遠くに住んでいる学生がいないことから、学校のクラブのミーティングなども夜の9時以降に始まることが多いです。

On-Campusの住居の形態にもいくつか種類があり、一つはいわゆる学生寮で、共同のトイレやシャワーがついており、食事はダイニングホールというbuffetスタイルの食堂で食べます。私は、Student Houseと呼ばれる学校の敷地内にたくさん建っている学校所有の一軒家の一つに総勢9名(!)で住んでいます。アメリカ人6名と日本人3名です。1階はリビング、キッチン、トイレ、相部屋(2人部屋)が二つ、中2階にお風呂とトイレ、2階に相部屋(2人部屋)二つと1人部屋が一つあります。ルームメイトのいる生活が夢だった私にとっては、ルームメイトだけでなくハウスメイト(同じ家に住む仲間)も出来て、想像以上に楽しい生活です。食事は自炊ですが、フライパンや包丁などをハウスメイトが貸してくれたり、マフィンやスコーンを作ってくれたり、たくさんの仲間の優しさに助けられています。

アメリカらしい、と思った出来事は、家に住む仲間がそろってから、まずミーティングをしたことです。例えば、冷蔵庫の中の自分の物には名前を書き人の物には基本的には触らないこと、友達を連れてきても良いが友達に関する責任は全て自分が負う事、などルールを共有しました。私は、他の2名の日本人の仲間と、「英語しか使わない」というルールを決めました。

9名で一つのお風呂を順番に使うのはなかなか大変ですが、みんなでリビングで映画を見たり、エクササイズをしたり、勉強を教えあったり、とても良い刺激を受けさせてもらっています。



Student House